
つみきの家

卯月智文

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

つみきの家

【Nコード】

N3048Z

【作者名】

卯月智文

【あらすじ】

男の子のすぐ側で起こる、小さな破壊と再生の物語。

小さな家ができた。

それは決して土や煉瓦でできたものではない。

ましてや、人が住めるような代物でもない。

四つの小さなつみきのパーツから建てられた家であった。

家を支える二本の柱は青く、その上に横になっている黄色い柱の更の上に、三角形の赤い屋根がある。

それを作り上げた少年は、誇らしげにそれを眺めていた。

だが突然、それは壊れた。

少年の目の前には、バラバラになった家と、それを踏みつける猫がいた。

猫は、どうだと言わんばかりに一回鳴くと、すぐにその場を鈴の音と共に去った。

少年はほんの少し、家があった跡を見つめた。

そしてすぐに、少年は木製のパーツを手を取った。

今度は青色の柱を四つに増やした。

それに合わせて、青柱の上に横たわる黄色の柱も二つに増やし、赤い屋根も二つに増やした。

これだけでは先程の家を二つ繋げただけに見えるが、少年は更に、二つの三角形屋根の頂点に乗るようにバランスよく、黄色い柱を横にしてゆっくり乗せた。

そしてその上に、赤い屋根を乗せた。

少し大きな家ができた。

それは決して土や煉瓦でできたものではない。

ましてや、人が住めるような代物でもない。

だが、先の倍以上のつみきが使われたその家を見て、少年の顔から、
笑みがこぼれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3048z/>

つみきの家

2011年12月11日15時51分発行